

第9回 IEEJ/APERC 国際エネルギーシンポジウム 開催のご案内

「エネルギー転換への多様な道筋をどう実現するか」

“Complexity of Achieving Energy Transition under Multiple Pathways”

G7 広島サミットにおいて、「各国のさまざまな条件に応じた多様な道筋がネットゼロという共通目標につながる」という文言のもと、エネルギー転換には各国の事情をふまえた多様な道筋があるという議長国である日本の考え方が共通認識として合意されました。

エネルギー転換には多様な道筋があるにせよ、その道筋を辿り確実に歩を進めるためには社会によるエネルギーの利活用のあり方を抜本的に変える技術のイノベーションが不可欠です。再生可能エネルギー、蓄電、水電解、水素/アンモニア/合成燃料生成・運搬、炭素回収・貯留といった技術を、社会実装そしてその先の普及拡大に向けて、経済効率性、環境負荷、安全性などの観点から、その練度を別次元に高めていかねばなりません。

一方、脱炭素エネルギーだけではアジアの新興国などの旺盛なエネルギー需要を賄うには限界があり、化石燃料を主体とする既存のエネルギーもないがしろにはできません。そうしたなかでも社会がネットゼロに近づくためには、省エネルギーもさることながら、化石燃料使用時に排出される CO2 などの温室効果ガスを回収・隔離するネガティブエミッション技術や NbS (Nature-based Solutions) を含むカーボンオフセットスキームと並行して炭素の再利用・リサイクルを可能せしめる炭素循環のためのエコシステムの構築が肝要です。

ただし、脱炭素技術や炭素循環のエコシステムが社会に組み込まれる前提には、クリティカルマテリアルなどその技術やシステムの維持のための原材料の安定確保があります。今から 50 年程前に起こった石油危機、そして直近のロシアによるウクライナ侵攻のなかでの化石燃料確保を通じて学んできた通り、エネルギー転換のなかでエネルギー安全保障が決しておざなりとはなってはいけません。

このような課題認識に基づき、今回のシンポジウムでは、次の 3 点を切り口に多様な国籍・バックグラウンドを持つ専門家との議論を通じて、エネルギー転換への多様な道筋を実現するための視座を国内外に発信してまいります。

- エネルギー転換を可能なものとする技術
- 炭素循環のためのエコシステムの構築
- クリティカルマテリアルの持続的な供給・利用

1. 開催日時

2024年4月19日（金）10:00～16:35（日本標準時（JST））

## 2. 開催方法

ハイブリッド形式：実会場（グランドプリンスホテル高輪プリンスルーム（港区高輪 3-13-1））  
+オンライン（ソフト：ZOOM）

## 3. 主催：

一般財団法人アジア太平洋エネルギー研究センター（APEREC）

一般財団法人日本エネルギー経済研究所（IEEJ）

## 後援：

独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）

## 4. プログラム

10:00-10:05	開会挨拶 寺澤達也（日本エネルギー経済研究所 理事長）
10:05-11:35	Session 1: エネルギー転換を可能なものとする技術 Technology enablers for energy transition strategy
講演 10:05-10:50 パネルディスカッション 10:50-11:35	<ul style="list-style-type: none"><li>● エネルギー転換を可能なものとする技術開発・投資の加速化はいかに行われるべきか？</li><li>● エネルギー転換に必要な技術のスケールアップのため、企業・政府などにはどんな役割が求められているか？</li></ul>
司会	坂本 敏幸（日本エネルギー経済研究所 理事 環境ユニット担任）
講演・ パネリスト	Dr. Timur Gul（Chief Energy Technology Officer, IEA） Dr. Joseph Majkut (Director, Energy Security and Climate Change Program (CSIS) ) 中村 勉 氏 (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 技術戦略研究センター環境・化学ユニット長)
11:35-13:00	ランチブレイク
13:00-14:30	Session 2: 炭素循環のためのエコシステムの構築 Build-up of an ecosystem for carbon circularity
講演 13:00-13:45 パネルディスカッション 13:45-14:30	<ul style="list-style-type: none"><li>● 炭素循環経済に係る社会の理解の深化のための課題は何か？</li><li>● ネガティブエミッション技術やNbS (Nature-based Solutions) を含むカーボンオフセットスキームの開発/利用促進のための阻害要因は何か？</li></ul>
司会	小林 良和（日本エネルギー経済研究所 研究戦略ユニット担任補佐兼研究戦略 GM）
講演・ パネリスト	Dr. Axel Pierru (Vice President, KAPSARC) Mr. Adam Baylin Stern (Policy and Engagement Lead, Carbon Engineering) 本郷 尚氏（株式会社三井物産戦略研究所シニア研究フェロー）
14:30-15:00	コーヒーブレイク

15:00-16:30	Session 3: クリティカルマテリアルの持続的な供給・利用 Sustainable supplies and use of critical materials
講演 15:00-15:45 パネルディスカッション 15:45-16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● クリティカルマテリアルのサプライチェーンの強化をいかにして進めていくべきか？</li> <li>● カーボンニュートラルに向けたクリティカルマテリアルの持続的かつ効率的な利用のために、どのような環境整備が必要か？</li> </ul>
司会	Glen Sweetnam (アジア太平洋エネルギー研究センター副所長)
講演・ パネリスト	Mr. Tim Gould (Chief Energy Economist, IEA) 原田 武氏 (独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 金属資源開発本部金属企画部 調査課長) 久谷 一朗(日本エネルギー経済研究所 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット担任)
16:30-16:35	閉会挨拶 入江 一友 (アジア太平洋エネルギー研究センター 代表理事・所長)

※ 全講演者・パネリストは実会場から参加する予定です。

※ プログラムは変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

5. 使用言語：英語／日本語（同時通訳）
6. 資料：HP 掲載予定（英語のみ）
7. 参加対象：賛助会員
8. 参加費：無料
9. 参加登録開始予定：2024年3月下旬

以上

お問い合わせ：

一般財団法人日本エネルギー経済研究所  
研究戦略ユニット 企画・広報グループ

E-mail: [ieej-mail@tky.ieej.or.jp](mailto:ieej-mail@tky.ieej.or.jp)